

美術の窓

5

May
2021
No.452

THE WINDOW OF ARTS



NEW 新人大図鑑 2021

評論家、
学芸員、デパート、
画廊、編集部が選ぶ

345名
一挙紹介

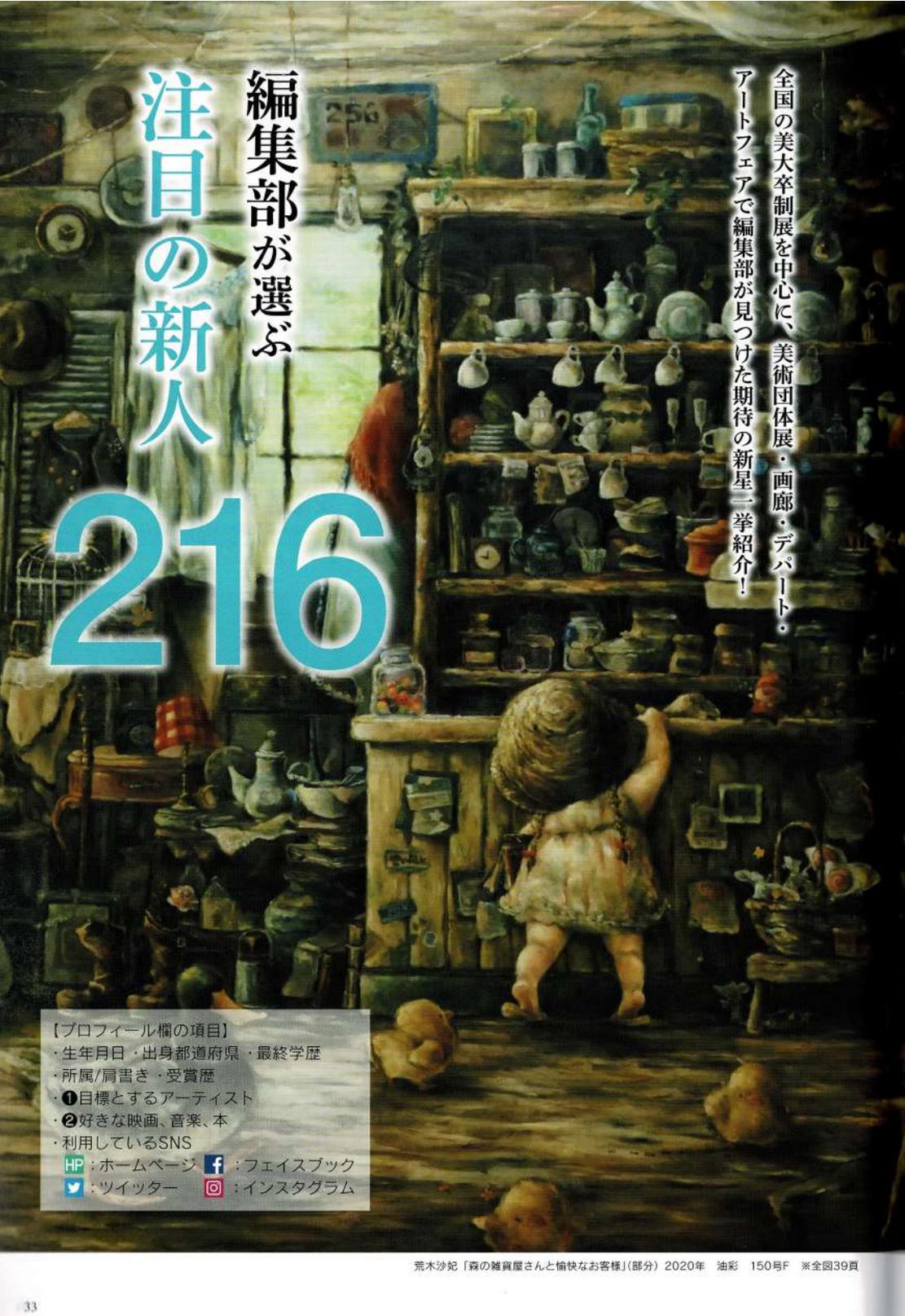
「全国15大学
卒業・修了制作展
レポート」

東京藝術大学
多摩美術大学
武蔵野美術大学
東京造形大学
女子美術大学

日本大学芸術学部
東北芸術工科大学
愛知県立芸術大学
名古屋芸術大学
金沢美術工芸大学

京都市立芸術大学
京都芸術大学
広島市立大学芸術学部
佐賀大学芸術地域デザイン学部
崇城大学芸術学部

技法講座 色鉛筆とシルバーポイントを活かした油彩技法〈中編〉中村光幸 公募展便り 入展・白日会展
日本南画院展・日輝展・日本水彩新選抜展・一水会精鋭展・主体神奈川展・主体中部展・独立新人選抜展・東京二紀展



編集部が選ぶ 注目の新人

216

全国の美大卒制展を中心に、美術団体展・画廊・デパート・アートフェアで編集部が見つけた期待の新星一挙紹介！

【プロフィール欄の項目】

- ・生年月日・出身都道府県・最終学歴
- ・所属/肩書き・受賞歴
- ① 目標とするアーティスト
- ② 好きな映画、音楽、本
- ・利用しているSNS

HP : ホームページ f : フェイスブック
 Twitter : ツイッター Instagram : インスタグラム

荒木沙紀「森の雑貨屋さんと愉快なお客様(部分) 2020年 油彩 150号F ※全国39頁



卒業・修了
制作展
レポート

令和2年度 崇城大学芸術学部卒業展・修了展

会場：熊本県立美術館分館 会期：2月23日～2月28日

絵画作品を制作した学生は、学部生も院生も自画像を合わせて展示。



美術学科の作品が並ぶ4Fの展示室3。



立体、平面、視覚芸術コースの個性的な作品が同じ空間に並ぶ。

熊本が誇る実力派の 多彩な作品が集結

芸術学部を含む5学部10学科の崇城大学。この度、芸術学部生（美術学科・デザイン学科）と大学院研究科生の卒業展・修了展を取材した作品は182点、熊本県立美術館分館の各フロアに学生たちが工夫を凝らして展示を行っていた。

大学院美術研究科の展示は、少人数ながら、高い実力が感じられる充実の内容。鬼木莉歩「ありていの月」（41頁）や、尾首安耶「人生食道楽」（40頁）など、学生生活で基礎から培われた描画力を生かし、その心の内を素直に表現した作品が多く見られた。美術学科の展示

では幼い頃の記憶をもとにした池田絵菜「その先に。」（35頁）や、家族をモチーフとした井上有利恵「家紋Tシャツ工場」（37頁）など、自身の成長や経験を表現した、卒業の節目にふさわしい作品も多く、それのある意味ストリートに最後まで描ききろうとする姿勢が強く印象に残った。

デザイン学科の展示では、VRを使ったインスタレーションや、学生が自ら企画・執筆・製本したマンガの展示、本格的な映像作品なども面白かった。

DATA

- 創立年 1949年
- 2020年度学部卒業生数 713人
- 2020年度大学院修了生数 43人
- アート系学部・学科

【学部】 芸術学部 美術学科（日本画、洋画、彫刻、芸術文化、視覚芸術）、デザイン学科（プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、マンガ表現）

【大学院】 芸術研究科（芸術学、美術、デザイン）

【住所】 熊本県熊本市西区池田4-22-1



池田絵菜

いけだ・えな 1998年5月13生まれ、熊本県出身。崇城大学芸術学部美術学科日本画コース卒業、同大学院修士課程在籍。改組新第7回日展入選、第3回新日春展入選。①加山又造。②映画：「Cats & Dogs」、本：三浦綾子『氷点』。

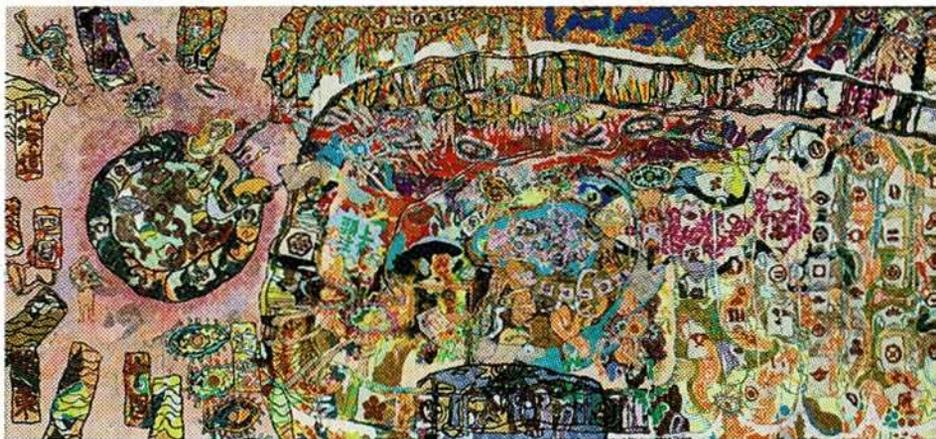
幼い頃「立ち入り禁止」の先には不思議な世界や生き物が存在していると思っていました。現実を知りショックを受けたことを覚えています。幼い頃の気持ちを忘れないように描きました。



「その先に。」2021年 岩絵具、麻紙
181.8×267.3cm

井上有利恵

いのうえ・ゆりえ 1997年8月6日生まれ、熊本県出身。崇城大学芸術学部美術学科日本画コース卒業。②音楽:「風の谷のナウシカ」(安田成美)、本:『ダンス・ダンス・ダンス』。



「家紋Tシャツ工場」2021年 水干、岩絵具、鳥の子紙 170×360cm

人はどうやって家族を家族と認知するのか不思議だった。ある時、人はみんな家紋Tシャツを着ているのではないかと考えて、家紋Tシャツを製造している秘密の工場を描いた。

PICK UP INTERVIEW

荒木沙妃

あらかさ・さき 1998年7月7日生まれ。熊本県出身。崇城大学芸術学部卒業。茨城大学大学院在籍。①ジョン・テニエル。②映画：洋劇全般。音楽：澤野弘之。本：梨木香歩。



「森の特異屋さんと愉快なお客様」2020年 油彩 150号F

なぜ大学で油彩を学ぼうと思ったのですか？

元々、趣味で絵を描いていましたが、崇城大学のオープンキャンパスで人物アッサンの講習を受けて、もっと専門的に学びたいと思いました。絵を描く土壌のない状態でも受け入れてくれる開口の広い大学だと思います。油彩は塗り重ねていく過程で深さや重みを表現でき、自分に合っていたので選びました。

卒業制作はノスタルジックな世界観のある作品でした。

制作に入るときにはあまり難しくは考えないようにしていますが、絵画の演出は意識するようになっていきます。不思議な物語性のある雰囲気のある作品が多いのですが、フワフワしすぎないように、どこか自然で現実性を感じられるようにしたいと思っています。単なる自己満足でなく、鑑賞者が自身のイメージを重ね、純粋に世界観に入り込めるような内面性を含む作品を目指しました。

—— 今後の目標を教えてください。

大学院に進学し、引き続き絵を学んでいきます。まだ大きな目標や、制作の展望は分かりませんが、ひたすら目の前の作品と向き合って誠実に描いていきたいです。ずっと意識しているのはこれまでの作品を超えるということ、それ続けて自分の表現を突き詰めていければと思います。



尾首安耶



おくび・あや 1997年1月5生まれ、福岡県出身。崇城大学大学院芸術研究科美術専攻修士課程修了。無所属。第96回白日会展入選。②映画：「ブラック・スワン」、音楽：ALI PROJECT、本：『「好き」の因数分解』。

「食」から得られる喜びに着目し制作しました。私の中にある「食」のイメージを明確にするため、雑誌を用いてコラージュを制作し、それを基に油彩で描きました。



「人生食道楽」2020年 油彩、キャンバス
200号P



鬼木莉歩



おにき・りほ 1995年11月25生まれ、福岡県出身。崇城大学大学院芸術研究科美術専攻修士課程修了。同大非常勤講師。改組新第7回日展初入選、第3回新日春展入選。①中村賢次、佐藤和歌子、國司華子、宮北千織。②映画：ジブリ、音楽：Aimer。

本作品では人物がより華やかに、魅力的になるように思案を重ね制作しました。より魅力的な人物を描くことを目標にこれからも制作を続けていきたいと思っています。

「ありていの月」2021年 岩絵具、膠、麻紙
150号F





川上加鈴



かわかみ・かりん 1998年6月9生まれ、熊本県出身。崇城大学美術学部美術学科日本画コース卒業。中学校美術教諭。改組新第5・6・7回日展入選、第23回松柏美術館花鳥画展入賞。①ピーター・ドイグ。

ピアノをモチーフに、音に「色」が見えるような感覚を表現した。色で遊ぶように絵を描き続ける中で、最終的に自分らしさにつながるものが嬉しく、楽しかった。

「音いろ」2021年 岩絵具、麻紙 227・
3×181・8cm





高木美里

たかき・みさと 1999年2月25日生まれ、熊本県出身。崇城大学芸術学部美術学科洋画コース卒業。①クリムト。②映画：スタジオジブリ、音楽：星野源。

現在は取り壊され、なくなってしまう
ましたが、実際にあった祖父母の家の
庭をもとに、私にとって穏やかな気持
ちになる風景を描きました。



「穂」 2020年 油彩、キャンバス 130号F



鳥巢拓郎

とりす・たくろう 1998年11月5日生まれ、福岡県出身。崇城大学芸術学部美術学科日本画コース卒業。①伊藤若冲。②映画：「鬼滅の刃」、音楽：Yama、本：『青のオーケストラ』。

角があり頑丈な皮膚を持ち、強靱な肉体を持つ犀だが私が見た犀は孤独に見えた。一見丈夫に見えても内には寂しさと孤独を抱えている。私はそんな犀を自分自身と重ねていた。



「寂寥」2021年 岩絵具、麻紙
200×200cm



西田佳世



にしだ・かよ 1998年10月9生まれ、熊本県出身。崇城大学芸術学部美術学科洋画コース卒業。白日会会友。①ラファエロ、シャルダン。②映画：ティム・バートン作品。



「Draceana」 2021年 油彩、キャンバス
1500mm

私の心情や環境、社会情勢などの要素をモチーフから間接的に表現し、幸福の木と呼ばれる「Draceana」から様々な未来への希望を表現した。

野田華子



のだ・はなこ 1999年3月26日生まれ、福岡県出身。崇城大学芸術学部美術学科日本画コース卒業。第1回安曇野涼風扇子展大賞、第3回新日春展入選。①竹久夢二。②音楽：キリンジ。

現実から逃れたいと思っていた時、ベランダに干された洗濯物がゆらゆら風に吹かれて気持ちよさそうで、この中に紛れてみたいとふと思ったことが、この作品を描くきっかけになった。



「風さらう」2021年 岩絵具、麻紙
150号S

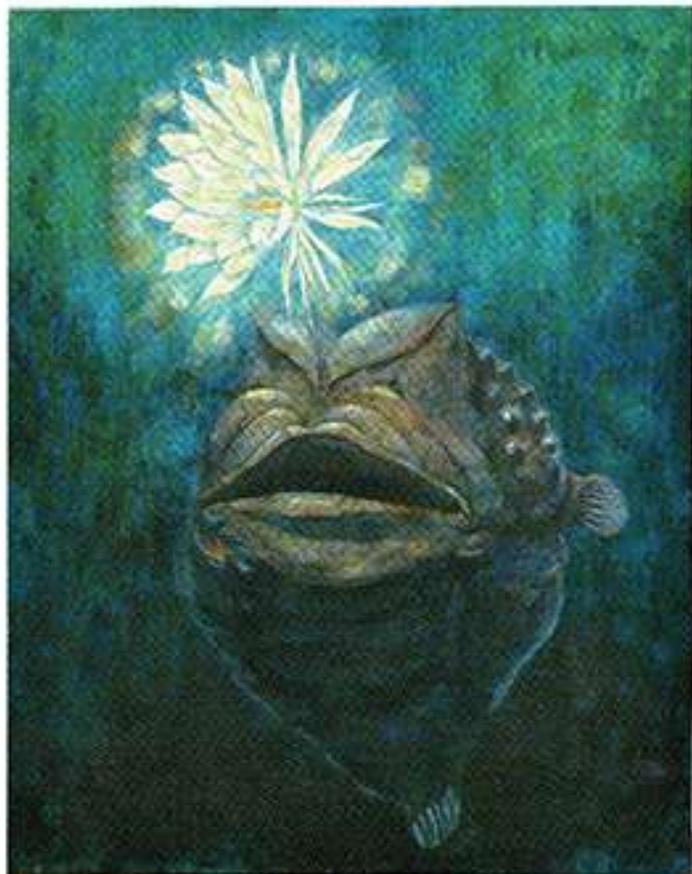


福崎愛佳

ふくざき・よしか 1998年10月28日生まれ、鹿児島県出身。崇城大学芸術学部美術学科日本画コース卒業。①出渕裕。②映画：「プレステージ」、音楽：アップテンポの曲、本：コミック系。

チヨウチンアンコウと月下美人をモチーフに描きました。アンコウの特徴的な顔を描くのは大変でした。

「灯火」2020〜21年 水干、岩絵具、麻紙
150号F





古川久仁美

ふるかわ・くにみ 1998年8月12生まれ、熊本県出身。崇城大学芸術学部美術学科日本画コース卒業。同大大学院在籍。2019年74回県美展奨励賞。①東山魁夷。②映画：「スワロウテイル」、音楽：スピッツ、本：星新一。

9月という月は、暑さが少しずつ遠ざかり涼しさが訪れ、置いていかれるような物寂しさを感じる季節だと思えます。そんな懐古的な感情を描きたくて「9月」をテーマにしました。



「セプテンバー」2021年 水干、岩絵具、麻紙
181.3×227.3cm



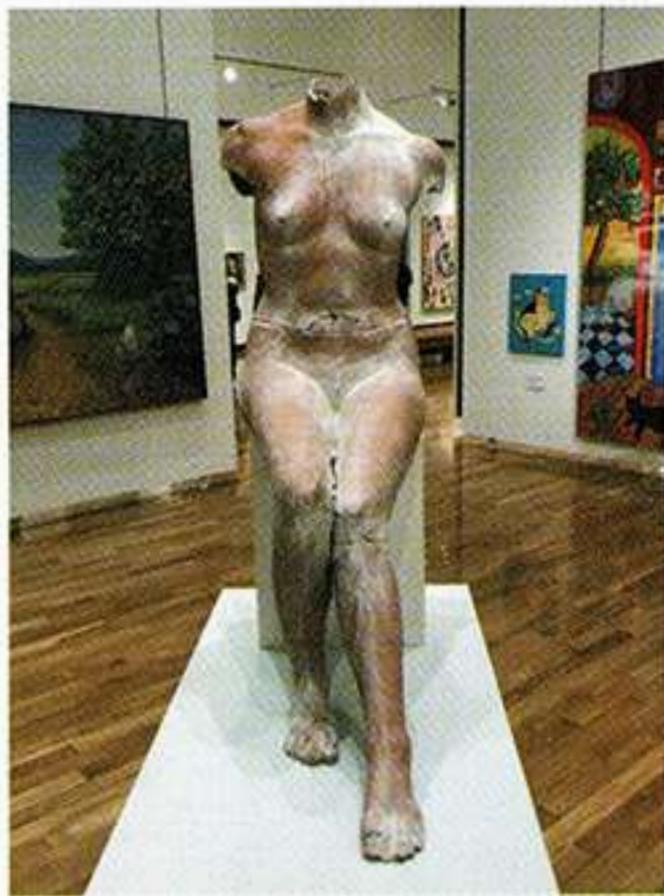
吉原ひなの

よしはら・ひなの 1998年6月26日生まれ、熊本県出身。崇城大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業。改組新第7回日展入選。①ニキ・ド・サンファル。②音楽：ディズニー関連。



焼くことで生まれるひびや質感。顔や腕がない不完全な形であるからこそ、完全な形にしようとする自分の記憶から補うことで作られる感覚を表現したく制作した。

「気配」 2020年 テラコッタ 105cm 126×49×



田中真季「Night」 白日賞・梅田画廊賞・

会友推挙。仰向けに寝る子供の姿を間接照明の光の中に描いている。ベッドが宙に浮いているような雰囲気も見せる。画面の中の光が、作者の思いの表れとして静かに広がりを見せていく。穏やかな寝顔を見せる子供の見ている夢の中へと誘われるようだ。

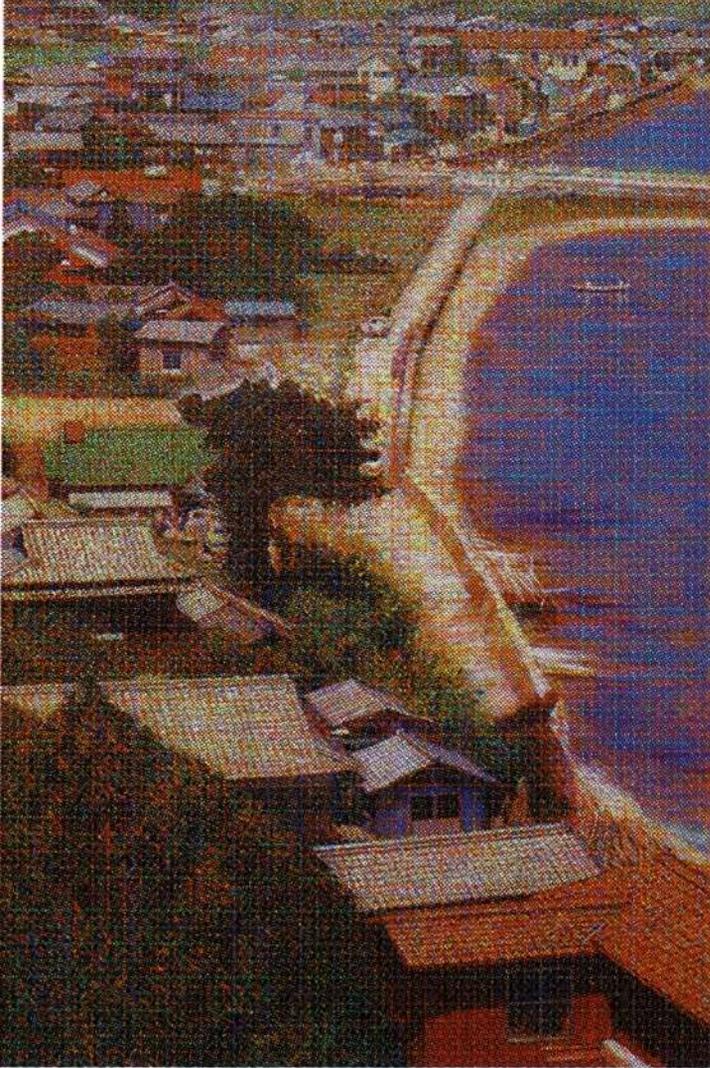


田中真季「Night」 白日賞・梅田画廊賞・会友推挙

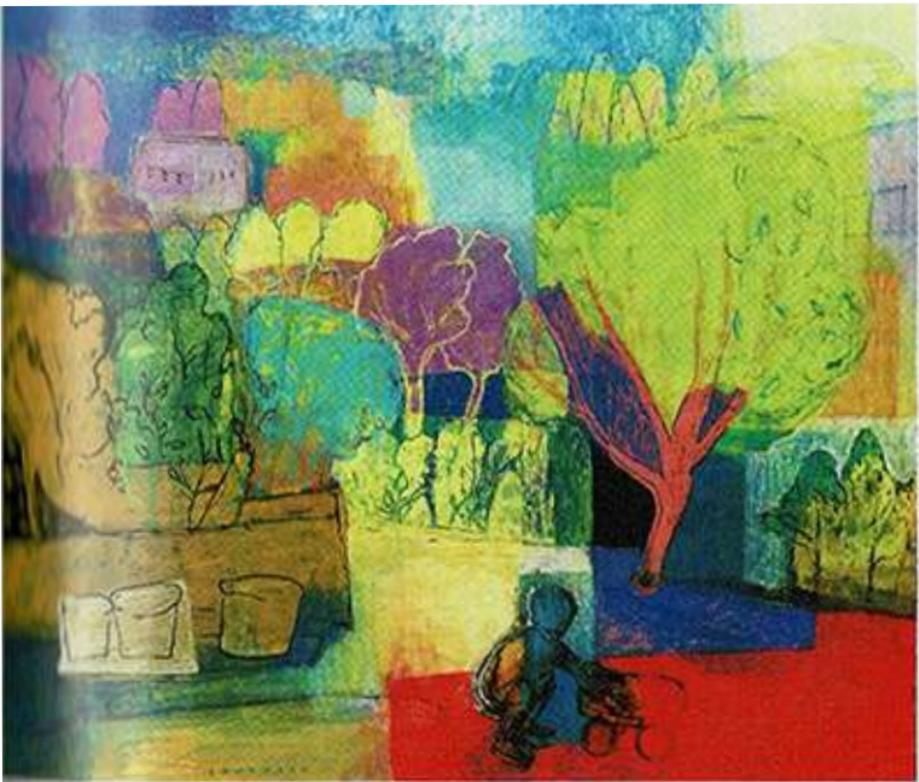
熊谷有展「旅の途上 (MINAMI SHIMABARA)」。長崎県の島原半島辺りの風景だと思われる。点描による細やかな格子状の調子の付け方は、熊谷作品ならではの表現であるが、それによってこの風景が過去のもの、あるいは記憶の中から呼び起こした

ようなイメージも感じさせる。風景もそれぞれがノスタルジーを滲ませるような雰囲気描かれていて、連なる家屋が溶け合っていていくような面白さを感じさせる。作者のイメージのフィルターによって、より強い思いが画面から溢れてくるようだ。

熊谷有展「旅の途上 (MINAMI SHIMABARA)」



柳田也寿志「ここなる」 準会員奨励賞・
会員推挙。力強いタッチで描かれた画面。
色面的に画面を構成しながら、線によって
モチーフを浮かび上がらせ、画面に存在さ
せる。下方の子供の姿はシルエットのみで
描かれているが、それが記憶の中から呼び
起こしたような曖昧な存在感を見せて興味
深い。ともすると、この鮮やかな風景全て
が消え去ってしまうかのような儚さがあっ
て面白いと思った。



柳田也寿志「ここなる」 準会員奨励賞・会員推挙

続理々佳「あべこべな葛藤」。画中画のようにしてドライフラワーを持った少女を中央に描く。右側には作者だろうか、顔を画面の外に出して見えないようにして椅子に座る人物の姿が描かれている。周囲はほとんど夢の中のような情景で、一つひとつの様子も見ていて楽しい。モデルが画面の中に閉じ込められてしまったかのようなユニークな構成が印象的である。

続理々佳「あべこべな葛藤」



松村盛仁「Kitchen」一般佳作賞・会友
推挙。台所で炊事をする女性の姿を背後か
ら描いている。夕方だろうか、穏やかな光
が差し込んでいる。味わい深いタッチによ
って一つひとつのモチーフが存在感をもつ
て描き起こされて、それぞれに、ここで生
活する人々の、特にこの女性の気配が宿り、
存在を主張する。下方で顔を上げる犬も愛
らしく、庶民の日常がリアリティをもつて
描き起こされている。



松村盛仁「Kitchen」一般佳作賞・会友推挙



荒木瑠奈「鏡花水月」

荒木瑠奈「鏡花水月」。水辺に立つ女性の姿。妖精的な雰囲気妖しくも美しい。水面は波がたゆたっていて、奥の岸辺に立つ樹木の姿が映り込んでいる。周囲の状況に比べてその樹木の映り込む様子がおもしろい。炎が燃えるような雰囲気もある。画面を舞台のように見立てて物語を紡いでいくような雰囲気に注目した。

楠元香代子「追憶」。石造りの古い建物の壁と入り口。その手前に女性の顔がある。作者の記憶の中からじわじわと現れてきた情景のような雰囲気興味深い。このままさらにイメージが広がり、女性も全身が現れるといったような雰囲気も感じられる。そしてそれが作者の中でリフレインされていくようだ。

楠元香代子「追憶」



中村晋也「這へ笑へ 這へ笑へ 二つにな
るぞけさからはく（一茶）」。小林一茶の句
からイメージを引き寄せている。赤子を抱
いた服を着た女性の姿が肉感的に捉えられ
て、この二人の親密な関係性が強い。愛情
のイメージとなって作品から滲み溢れて、
鑑賞者の郷愁を強く誘う。

中村晋也「這へ笑へ 這へ笑へ 二つになるぞけさからはく（一茶）」



勝野眞言「翠」。磁器で作られたような
女性の胸像。少し細身の顔が中性的な雰
気も見せる。緑の釉薬がかかっていて、そ
れが森をイメージさせもする。森の中に立
ち、そのまま周囲の風景に溶け込んでいく
かのような、儂い存在感が印象に残った。

勝野眞言「翠」

